平成31年度　唐津市立入野小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
自ら学び、まわりと協働しながら、これからの社会を創りだす入野っ子の育成	①確かな学力の向上 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①確かな学力の向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	一貫性をもった指導の徹底	①標準学力調査（国語科・算数科）において、県平均を上回る。 ②家庭学習時間（学年×10＋20分）を80%達成する。 ③教師の指導力アップを図るために、積極的に研修を重ねる。	・「めあての確認」「パーソナルワーク」「グループワーク」「クラスワーク」「まとめ」「振返り」の流れを徹底する。 ・家庭学習の充実を図るために，「入野小家庭学習の手引き」を作成し，PTAと連携しながら啓発していく。 ・講師（算数）を招いての授業研究会，唐津市学力向上研究発表会，他校の研究授業参観を通して，指導を見直す。	B	・「めあて」「ふりかえり」「まとめ」を大切にしながら一定の流れを作ることができた。 ・算数を中心に一人で考え、友だちと交流する中で考えを深めるようになってきた。 ・家庭学習時間の目安を学年ごとに設定し、機会をとらえて呼びかけたことで目標を達成することができた。 ・学力向上指定校として研修会や研究授業参観などを通して、授業改善に取り組むことができた。	・基礎・基本の定着に向けて、宿題内容やスキルタイムの内容を工夫していく。 ・研究指定2年次に向けて、「ふりかえり」の指導を充実させていく。 ・家庭学習の充実についてはPTAと連携し、年間を通じて呼びかけていく。 ・板書やノート指導を含めて授業や教材研究について、伝え合う機会を多く設定する。
学校運営	○特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	①特別支援教育の校内研修会を年間2回以上実施する。 ②専門機関との連携を図る。（特別支援学校による巡回相談） ③小中連携を図り、児童の進路保障につなげる。	・児童のニーズに合わせた校内支援体制の充実のために，必要に応じて適宜、支援会議を実施する。 ・ユニバーサルデザインに基づく学級掲示や経営を促進する。	A	・必要に応じてケース会議を実施し、校内支援体制を整えるようにした。 ・SCやSSWの活用、専門機関との連携を効果的に行うことができた。 ・ユニバーサルデザインを推進し、居場所づくり、わかる授業づくりを支えることができた。	・支援を要する児童に対して十分な指導ができるように支援会議を効果的に仕組んでいく。 ・個に応じた支援体制ができるように専門機関や幼保・中と連携しながら進めていきたい。 ・校内研修の充実を図り、特性に応じた児童理解の大切さを確認していく。

②豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	思いやりの気持ちの醸成	①「あいさつをする」「返事をする」「はきものをそろえる」の3つのやくそくを継続徹底して指導し、心を育てる。 ②特別の教科「道徳」の充実を図る。 ③体験的な活動を通して豊かな心を養う。	・人権集会・全校朝会や学級活動を通して、人権の大切さについて伝えていく。 ・道徳の授業実践を重ね、子どもの変容を見取る。そのための研修を行う。 ・道徳を水曜日の5時間目に設定し、全校で一斉に取り組む。 ・体験を通して地域理解やその活動を通して、学んだことを友だちや地域に発信する。	A	・「3つの約束」の周知徹底が進み、自信をもって取り組むことができる児童が増えた。 ・毎週水曜日に道徳や人権集会の時間を設け、全校で一斉に取り組むことができた。 ・ふれあい道徳や人権集会では保護者の参観を推進し親子で考えるよい機会となった。	・人権・同和教育については見通しをもって計画的に進め、思いやりの気持ちを醸成していく。 ・道徳については、授業の相互参観や研修会を通して、指導力を向上させていく。 ・地域や保護者と一緒に考える時間を継続して設定していく。
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・故郷が好きな子どもを育てる。 ・郷土について学ぶ体験活動3回以上。 ・全校児童が地域とつながる活動に参加する。	・総合的な学習の年間計画の整備を図る。縦への系統性や教科等横断的な関わりを持たせる。 ・地域人材リストの整備を図る。 ・地域での出番・役割・承認の場が確保できるように探っていく。	B	・総合的な学習の時間を通して地域とつながりある活動ができた。 ・地域の方や各分野の名人をGTとして招くことができた。 ・県外学校との交流を通して、ふるさとのよさを再発見することができた。	・地域人材リストを整備し、教科を横断して活用できるようにしていく。 ・自らの成長を客観的に確認するために、キャリアパスポートの活用の仕方を工夫していく。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	情報の共有化	①共有フォルダを活用し，様式や資料の共有化を図り，効率的に業務を進める。 ②全職員がSEI－Net等の有効活用ができるようにする。	・教頭→事務主幹→教務→校長→教頭と情報を共有し、分掌事務に沿って、教頭から担当者へ必要な情報を伝える。 ・全職員がSEI－Netの情報を確認できるようにし、県や市の教育委員会から届いた内容を共有する。	A	・各公務分掌の担当に必要な情報を提供、共有することができた。 ・SEI－Netのフォーラムを活用しながら会議を円滑に進めることができた。	・フォルダーやファイルを整理したり、教材を活用し合えるようにしていきたい。 ・新システムに移行するので活用の仕方について研修を設定し、さらなる業務改善を推進していく。 ・子どもと向き合ための時間の確保を意識して、推進していく。
	●いじめの問題への対応	温かい人間関係作り	◇いじめを許さない集団づくり ◇いじめの早期発見・早期解決 ◇児童理解に基づく、教師の指導力向上を図る。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルテストなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・生活アンケートを月に1回実施する。 ・学年グループでの情報交換や授業の相互参観を通して、学級づくりへの助言を行う。	B	・生活アンケートで児童の困り感や自己肯定感の変容等を詳細に把握することができた。 ・SCやSSWと一緒に授業を仕組むことで、児童理解に基づいた指導力の向上を図ることができた。	・生活アンケートを一括で集約し、情報共有することで、早期発見・早期解決の迅速にできるようにする。 ・生徒指導協議会と特別支援研修を分けることで多面的に児童理解を進めていくことができるようにする。 ・校内研修や事例検討会を定期的に仕組み、教師の指導力向上を図る。

③健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康，体つくり	運動習慣の定着と改善	①15分休みや昼休みに、外で元気に遊ぶ児童を70%以上にする。 ②低学年1分間、高学年は2分間以上の持久なわとびができる児童を70%以上にする。 ③持久走大会前の練習の参加率を90%以上にする。	・体育委員会による外遊びの啓発をする。 ・持久力，俊敏性の向上をめざして，計画的継続的になわとび運動を授業に組み込む。 ・持久走大会に向けて，全校で統一した学習カードを準備する。	B	・外遊びについては放送等の呼びかけで効果的に啓発することができた。 ・持久なわとびの達成率は60%だった。 ・学年の発達段階に応じて学習カードを準備したことで、児童の実践意欲を引き出すことができた。	・外遊びについては安全面や健康面の指導と合わせて推奨していく。 ・持久縄跳びについては全員で跳んだり、対戦方式で跳んだりするなど形式を工夫して児童のやる気を高めていく。 ・柔軟性や体幹を高めるために、授業の始まり「体つくり運動」を入れるなど工夫をする。
学校運営	○予防的，開発的指導	基本的生活習慣の実態把握と改善指導	①「早寝・早起き」の履行率を80%以上をめざす。 ②安全教育の充実を図る。	・生活アンケート・・・月に1回実施。 ・家庭への啓発・・・保健室だより，学校だより，講演を通して実施。 ・児童への指導・・・集会の際，養護教諭や保健・体育委員会による啓発。 ・保健指導の充実・・・養護教諭と担任とのTT授業を仕組む。 ・交通安全教室，各種避難訓練・・・自分の命は自分で守る態度を育てるために、外部と連携し合いながら体験活動を充実	A	・よいこのくらし調査では早寝早起きの履行率を達成することができた。 ・交通安全教室、避難訓練、不審者対応教室を行い、安全教育の充実を図ることができた。	・生活アンケートの効果的な活用については生活部を中心に提案していく。 ・子どもたちに具体的な啓発活動を行い、規則正しい生活が送れるように工夫する。 ・地域の特色や社会の情勢を考えながら、安全教育の内容を工夫していく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	○小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的学習習慣の向上	①宿題を提出する児童を90%以上にする。 ②学校と保護者との連携を密にする。	・児童自身に毎日の生活を振り返らせる「がんばりカード」等を作成して活用させ、保護者にも点検してもらう。 ・学級通信、連絡帳等で学校の情報を発信することはもちろん，保護者が返信できるような双方向のやりとりを仕組んだり，日頃から学校へ足を運んでもらう機会を設定したりする。	A	・「がんばりカード」で毎日の生活を振り返らせることで、家庭と連携して学習習慣や生活習慣を身に着けさせることができた。宿題はほぼ提出することができた。 ・学級通信や学校だよりを通して学校の様子を伝えることができた。	・学級通信や懇談会などを通じて学習や生活の様子を伝え、日頃から家庭と情報の共有化を図る。 ・低学年の時期の身に付けておくべきことについて、全職員で共通理解を図っておく。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

【本年度のまとめ】
・学校評価システムを活用しながら、個人や部会の目標設定と反省を行った。改善策についても共通理解をすることができた。
【次年度の取組】
・9年間の学びと育ちを念頭に置きながら、小小連携・小中連携を進め、学力向上や心の教育、体力向上に向けた取組の継続と改善を図っていく。
・新学習指導要領の実施に伴い、教職員の資質向上をめざし、授業改善を進め、研修の場の工夫をする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目